

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2007年1月25日

I 概要

実践団体・担当者名	伊藤貴広（社団法人 静岡県建築士会会員 / 大井川町立大井川南小学校学校評議員）
連絡先	電話 054-237-8510
プランタイトル	『建築士だからこそできる耐震課外授業』 建築士による住宅模型を用いた防災教育の取り組み -地域における専門家の連携-
目的	<p>地震による被害をただ伝えるだけでは、子供たちは怯えるだけで終わってしまう。被害を減らすためにはどうしたら良いのかを考え、対策法を知るだけでなく体験することは重要なことである。</p> <p>このプランの目的は、子供たちが事前防災の一つである建物の耐震診断と補強、家具固定の重要性を実際に建物の耐震診断や補強工事を行っている専門家本人（建築士）から得ることである。また、理解をより深めるために木造住宅の重量や耐震補強の効果を体感してもらうことを目的とする。</p> <p>なお、授業後には、必ず子供たちに対してアンケート調査を行う。授業の継続化は調査結果の蓄積につながり、専門家が子供たちに授業を行う場合の効果、課題を示す重要な資料になると考えている。</p> <p>今までの活動成果により小学校での課外授業がほぼ定着、今後は児童・生徒の年齢に応じた段階的な授業を目指す。小学生のときに耐震課外授業を受けた中学生に対して、より専門的な内容や経験談を語ることで、防災に対する関心や危機意識の定着化を図る。</p>
プランの概略	<p>○耐震課外授業の実施</p> <p>木造住宅の耐震診断、耐震補強を数多く手がけた建築士が、地元（大井川町）小学校の協力や地域の他専門家との連携により、自身の経験や技術を生かした体験型防災授業（耐震課外授業）を行う。これがプランの核であり、学校の授業として行うことを原則とする。</p> <p><2006年度 授業実績^{*1}></p> <p>「大井川町立大井川南小学校」にて住宅模型を用いた体験型防災授業実施 「大井川町立大井川西小学校」にて起震車を用いた体験型防災授業実施^{*2} 「大井川町立大井川西小学校」にて住宅模型を用いた体験型防災授業実施 「大井川町立大井川東小学校」にて住宅模型を用いた体験型防災授業実施</p> <p>次にプランの発展として以下の活動を行っている。</p> <p>○継続的な授業実施につながる活動</p> <p>* 地元の小・中学校に授業目的及び内容を説明^{*3} * 地元住民に授業目的及び内容を説明^{*4}</p> <p>○耐震課外授業の拡充、個人や地域における防災力向上につながる活動</p> <p>* 地元周辺の小・中学校に授業目的及び内容を説明^{*5} * 他専門家（他団体）との連携強化^{*6} * 発達段階に応じた防災教育体制の確立^{*7} * インターネットによる情報発信の強化^{*8}</p>

	<p>* 他団体主催の防災イベントに参加※⁹</p> <p>* 授業実践マニュアルの作成とウェブ公開※¹⁰</p> <p>* 新教材（新しい住宅模型）の開発</p> <p>※1. VI実践後 自由記述「参考資料1」参照</p> <p>※2. 大井川西小学校5年生に対して毎年行っている耐震課外授業内容に追加する目的で4年生を対象に今年度から実施（VI実践後 自由記述「参考資料6」参照）</p> <p>※3. VI実践後 自由記述「参考資料2」参照</p> <p>※4. VI実践後 自由記述「参考資料3」参照</p> <p>※5. VI実践後 自由記述「参考資料4」参照</p> <p>※6. VI実践後 自由記述「参考資料5」参照</p> <p>※7. VI実践後 自由記述「参考資料6」参照</p> <p>※8. VI実践後 自由記述「参考資料7」参照</p> <p>※9. VI実践後 自由記述「参考資料8」参照</p> <p>※10. VI実践後 自由記述「参考資料9」参照</p>	
<p>プランの対象と 参加人数</p>	<p>（対象）大井川南小学校5年生（参加人数）男37名・女45名 計82名</p> <p>（対象）大井川西小学校4年生（参加人数）男22名・女34名 計56名</p> <p>（対象）大井川西小学校5年生（参加人数）男36名・女32名 計68名</p> <p>（対象）大井川東小学校4年生（参加人数）男35名・女47名 計82名</p>	
<p>実施日時</p>	<p>2006年10月11日 10:30～11:15</p> <p>2006年11月15日 13:30～15:00</p> <p>2006年11月17日 14:00～15:00</p> <p>2006年11月24日 14:00～14:55</p>	
<p>主な実施場所</p>	<p>大井川町立大井川南小学校多目的ホール</p> <p>大井川町立大井川西小学校北側駐車場</p> <p>大井川町立大井川西小学校体育館</p> <p>大井川町立大井川東小学校多目的ホール</p>	
<p>連携した団体名、 連携の方法</p>	<p>連携団体の有無</p>	<p>有り</p>
	<p>連携した団体名</p>	<p>(A) 大井川町役場建設都市課都市計画係</p> <p>(B) 大井川町教育委員会（大井川町役場学校教育課）</p> <p>(C) 静岡産業大学経営学部助教授牧野好洋</p> <p>(D) 静岡県地震防災センター</p> <p>(E) 大井川町役場総務課防災係</p> <p>(F) 焼津市消防署大井川分署</p> <p>(G) 静岡県中部地域防災局</p>

	<p>連携したきっかけ・理由</p>	<p>(A) 授業手伝い及び耐震補強に関する情報提供、起震車（防災指導車）運転に協力してほしかったため。 (B) 大井川町内の小・中学校とのパイプ役、起震車（防災指導車）借受申請に協力してほしかったため。 (C) 授業後に実施するアンケート調査の設計、結果を集計・分析に協力してほしかったため。 (D) 地震防災に関する情報・教材提供に協力してほしかったため。 (E) 起震車（防災指導車）借受申請及び焼津市消防署大井川分署とのパイプ役として協力してほしかったため。 (F) 起震車（防災指導車）操作に協力してほしかったため。 (G) 地震防災に関する情報・教材提供に協力して欲しかったため。</p>
	<p>連携団体へのアプローチ方法</p>	<p>(A) 以前から連携。（県事業「プロジェクト TOUKAI-O」における協力関係にある。） (B) 以前から連携している。 (C) 以前から連携している。 (D) 以前から連携している。 (E) 以前から面識があり、活動内容を説明したところ賛同していただいた。 (F) 大井川町役場総務課防災係を通じて活動内容を説明したところ賛同していただいた。 (G) 「大井川町総合防災訓練（2006年8月27日）」に耐震相談員として参加した際に職員と知り合い、活動内容を説明したところ賛同していただいた。</p>
	<p>連携団体との 打合せ回数</p>	<p>(A) 0回（特に打合せと呼べるものは行ってはいない） (B) 1時間 × 1回 (C) 1時間 × 2回 (D) 1時間 × 1回 (E) 1時間 × 1回 (F) 0回（大井川町役場総務課防災係が必要事項を連絡） (G) 2時間 × 2回</p>
	<p>連携団体との役割分担</p>	<p>(A) 授業手伝い及び耐震補強に関する情報提供、起震車（防災指導車）運転。 (B) 授業手伝い及び大井川町内の小・中学校とのパイプ役、起震車（防災指導車）借受申請。 (C) アンケート調査の設計、結果を集計・分析 (D) 地震防災に関する情報・教材提供及び授業内容助言 (E) 起震車（防災指導車）借受申請及び焼津市消防署大井川分署とのパイプ役。 (F) 起震車（防災指導車）操作及びレスキュー車説明 (G) 地震防災に関する情報・教材提供及び活動内容助言</p>

II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	1名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者・企画・渉外・制作 伊藤貴広
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2006年4月～2006年11月
	立案時間	およそ20時間
	上記のうち打合せ回数	0回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<p>建築士だからこそできる授業内容を心がける。 地震被害の恐ろしさをただ伝えるだけの授業は避け、事前防災の効果を実際に伝える。 授業中、難しい言い回しや単語は避け、正確な情報を伝えるよう心がける。 授業を受ける子供たちが「古い建物＝悪い」と短絡的に考えないように注意する。 個人活動であるからこそ他専門家との連携を重視する。</p>	
プラン立案で 苦労した点	<p>学校側（教育関係者）に授業目的及び内容をどのように示すか。 どのように授業内容を絞り込むか。 授業の継続化及び定着化（学校との信頼関係の継続）をどのように進めるか。 発達段階に応じた防災教育体制確立をどのように進めるか。</p>	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	a 住宅模型を用いた体験型防災授業 1名 b 起震車を用いた体験型防災授業 1名
	外部スタッフの総人数	a 3名 b 8名
	主なメンバーの 役職・役割	<p>a 住宅模型を用いた体験型防災授業 責任者・講師・資料制作 伊藤貴広 会場準備・授業助手 伊藤和広（大工） 大井川町役場学校教育課職員1名 大井川町役場建設都市課職員1名</p> <p>b 起震車を用いた体験型防災授業 責任者・企画演出 伊藤貴広 会場準備 大井川町役場学校教育課職員 1名 大井川町役場総務課防災係職員2名 起震車操作 焼津市消防署大井川分署署員 4名</p>
準備に要した日 数・時間	準備期間	a 2006年10月～2006年11月 b 2006年11月
	準備総時間	a およそ10時間 b およそ 2時間

	上記の内打合せ回数	a 1時間 × 1回 (主なメンバーとの打合せ) b 1時間 × 3回 (小学校学年主任との打合せ)
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	大井川町教育委員会 (大井川町役場学校教育課) 大井川町立大井川南小学校 大井川町立大井川西小学校 大井川町立大井川東小学校 大井川町立大井川中学校
	どのように働きかけたか	以前から面識のある大井川町役場学校教育課に地元小・中学に授業実施を提案するため今年度も協力をもとめた。 事前連絡の上、大井川町役場学校教育課職員と学校訪問。校長先生に今年度も耐震課外授業実施を提案した。 事前連絡の上、大井川町役場学校教育課職員と学校訪問。校長先生に今年度も耐震課外授業実施を提案した。また、毎年授業を行っていることから追加内容として、起震車を用いた体験型防災授業も提案。 事前連絡の上、大井川町役場学校教育課職員と学校訪問。校長先生に今年度も耐震課外授業実施を提案した。 同上
	結果	学校とのパイプ役や授業手伝いなど協力して頂いた。 授業依頼をいただきました。 授業依頼をいただきました。 授業依頼をいただきました。 中学生向けの防災授業提案を希望。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	なし
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	なし
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	a 住宅模型を用いた体験型防災授業 ○機材：テレビ、DVD再生機、ホワイトボード、マイク、マグネット ○教材：住宅模型(大・小)、梁材、震災写真、耐震実験DVD、乾パン b 起震車を用いた体験型防災授業 ○機材：テレビ、ビデオデッキ ○教材：起震車、レスキュー車、防災ビデオ

	入手先・入手方法	<p>a 住宅模型を用いた体験型防災授業 ○機材：小学校が用意（DVD再生機は講師が用意） ○教材：住宅模型については大工が制作、梁材は以前から使用しているものを利用した。地震被害写真と耐震実験DVDについては、それぞれ静岡県地震防災センターと静岡県中部地域防災局から借りている。</p> <p>b 起震車を用いた体験型防災授業 ○機材：小学校が用意 ○教材：起震車については申請手続きを行い使用、防災ビデオについては、静岡県中部地域防災局から借りている。</p>
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	<p>a 住宅模型を用いた体験型防災授業 ○機材：映像やクイズを通じて事例を紹介するため ○教材：地震被害や耐震補強の効果を分かりやすく伝えるため</p> <p>b 起震車を用いた体験型防災授業 ○機材：防災ビデオをみるため ○教材：地震というものがどのようなものを体験するため（耐震課外授業をより効果的なものとするため）</p>
参加者の募集	募集方法	なし
	募集期間	年 月 日 ~ 月 日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		<p>授業実施前に必ず学校担当者（主に学年主任）と打合せを行うことで、当日の準備をスムーズに行うことができた。</p> <p>どのようなささいなことでも連携する団体や学校側に連絡し、情報の共有に努めた。特に学校側に対しては、常に丁寧な対応を心がけた。</p> <p>重要な連絡については、電話だけでなく書面にして伝えるよう心がけた。</p> <p>時間的余裕をもって準備を行った。</p> <p>上記の点を徹底した結果、準備で苦労した点は、特になかった。</p>

タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月			
12月			
2006 1月	○2006年度活動内容立案		
2月			OSBS ラジオ出演
3月			
4月	○連携団体へのコンタクト	○4/6 大井川町役場学校教育課に協力要請 ○4/19 静岡産業大学牧野助教授と打合せ 「テーマ：アンケート調査について」 ○建築士伊藤の耐震ファイル Blog デザイン 変更作業（授業写真追加含む）	
5月		○学校提出用資料作成 5/7 三島市青年会議所担当者と打合せ 「テーマ：防災イベント説明」 ○5/17 大井川町内小・中学校訪問	
6月			
7月			
8月			○8/27「大井川町総合防 災訓練」に耐震相談員 として参加
9月	○「起震車を用いた体験型防災授 業」企画立案	○体育・健康教育指導者講習会用資料作成	○9/29「体育・健康教 育 指導者講習会」参加
10月		○10/5 大井川南小学校学年主任と打合せ 「テーマ：授業実施に関する最終確認」 ○10/12 大井川町役場総務課防災係及び学 校教育課職員と打合せ 「テーマ：起震車を用いた体験型防災授 業に関する確認」 10/13 静岡県中部地域防災局職員と 打合せ 「テーマ：耐震課外授業の充実化」 11/23 静岡県中部地域防災局職員と 打合せ 「テーマ：発達段階に応じた防災教育体	○10/11 大井川南小学 校住宅模型を用いた 体験型防災授業実施 ○10/15（社）三島市 青年会議所主催防災 イベント内にて耐震 課外授業実施

		<p>制の確立について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○10/28 地震防災センター職員と打合せ 「テーマ：耐震課外授業の充実化」 ○起震車を用いた体験型防災授業実施マニュアル作成 ○起震車を用いた体験型防災授業実施マニュアルを大井川町役場総務課防災係及び学校教育課、大井川西小学校に提出 教材・備品の準備 	
11月		<ul style="list-style-type: none"> ○11/1 大井川中学校校長と打合せ 「テーマ：中学生向け防災授業について」 ○11/1 大井川西小学校学年主任と打合せ 「テーマ：授業実施に関する最終確認」 ○11/21 大井川東小学校学年主任と打合せ 「テーマ：授業実施に関する最終確認」 ○吉永第四町内会主催防災講習会用資料作成 ○教材・備品の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ○11/15 大井川西小学校起震車を用いた体験型防災授業実施 ○11/17 大井川西小学校住宅模型を用いた体験型防災授業実施 ○11/24 大井川東小学校住宅模型を用いた体験型防災授業実施
12月			<ul style="list-style-type: none"> ○12/3 吉永第四町内会主催防災講習会（大井川町地域防災訓練）に講師として参加
2007 1月		<ul style="list-style-type: none"> ○1/22 静岡産業大学牧野助教授と打合せ 「テーマ：アンケート調査結果について」 ○住宅模型を用いた体験型防災授業（耐震課外授業）実施マニュアル作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○住宅模型を用いた体験型防災授業（耐震課外授業）実施マニュアルウェブ公開 ○報告書作成

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	耐震課外授業（住宅模型を用いた体験型防災授業）			
実施日	①10月11日（大井川南小学校） ②11月17日（大井川西小学校） ③11月24日（大井川東小学校）			
所要時間	5分	15分	5分	20分
達成目標	東海地震による県内の予想最大死者数を知る	地震被害の原因について考え、地震による建物倒壊の恐ろしさを実際に体験する	どうすれば地震による被害を減らせるのか考える (防災を自分事として考える)	事前防災（耐震補強）の効果を知り、実際に体験する
生成物				
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の説明 ● 静岡県で大きな地震が発生した場合、死傷者はどれくらいと県は予想しているのか考えてもらう。(クイズ形式で行い、なるべく多くの子供たちに答えてもらう) 	<ul style="list-style-type: none"> ● どうして地震が発生するとたくさんの人が死んでしまうのか考えてもらう。 ● 地震による建物倒壊の恐ろしさを東海地震の第三次被害想定や写真、梁材を使用して知ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲と相談した上で、どうすれば被害を減らせるのか考えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅模型を使用して事前防災の一つである耐震補強の効果を実験する。 ● 自分たちの行動次第で、被害を減らす事ができることを知ってもらう。 ● 家具固定を例に今からでもできる事前防災を伝える。
ツール (特別に用意したもの)	ホワイトボード クイズ用備品 乾パン（参加者全員分）	震災写真（建物倒壊） 梁材 住宅模型（小）		住宅模型（大） テレビ・DVD再生機 耐震実験DVD
場所	①大井川南小学校多目的ホール（学校の授業として実施） ②大井川西小学校体育館（学校の授業として実施） ③大井川東小学校多目的ホール（学校の授業として実施）			

タイトル	起震車を用いた体験型防災授業※10	
実施日	11月15日	
所要時間	45分	45分
達成目標	(4年1組)地震とはどのようなものか体験する (4年2組)地震とはどのようなものか知る	(4年1組)地震とはどのようなものか知る (4年2組)地震とはどのようなものか体験する
生成物		
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学4年1組は現地集合、は教室待機 ● 4年1組は、1グループ(4人名)ごとに起震車による地震体験を行う。体験後、子供たちは、隣に設置したレスキュー車を見学する。レスキュー車の説明は、消防署員が行う。 ● 4年2組は、教室にて防災ビデオ鑑賞。地震とは何かを分かりやすく知ってもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4年2組は現地集合、4年1組は教室移動 ● 4年2組は、1グループ(4人名)ごとに起震車による地震体験を行う。体験後、子供たちは、隣に設置したレスキュー車を見学する。レスキュー車の説明は、消防署員が行う。 ● 4年1組は、教室にて防災ビデオ鑑賞。地震とは何かを分かりやすく知ってもらおう。
ツール (特別に用意したもの)	テレビ・ビデオ 防災ビデオ(「そのとき君は」「稲村の火」)	テレビ・ビデオ 防災ビデオ(「そのとき君は」「稲村の火」)
場所	大井川西小学校北側駐車場 大井川西小学校教室	

※10.VI実践後 自由記述「参考資料6」参照

VI実践後

<p>参加者への アンケート結果</p>	<p>アンケート調査の実施 アンケート結果は今後の防災教育の推進・向上を図るための貴重な基礎資料となる。そこで調査の設計、結果の考察について、統計調査などを専門とする牧野好洋氏（静岡産業大学経営学部助教授）に依頼した。また結果を十分に活用できるよう、氏に報告書の作成を依頼、外部からの依頼に応じて、調査結果を詳細に開示できるようにした。報告書は、授業を実施した学校や県に提出している。</p> <p>アンケート結果 実施した耐震課外授業に対する感想を統計的に把握し、今後の防災教育に活用するため、授業後、受講した児童を対象とするアンケート調査を実施、結果を分析した。 その結果、(1)「過去に地震の被害について家庭で話した」という回答は43.3%であったが、この授業を受け「今後それについて家庭で話したい」という回答は58.4%に増加した。両者の間にある差を、有意水準を5%とし統計的に検定したところ、両者の間には有意差が見られた。これは授業によって、地震の被害について家庭で話したいという方向に受講者の意識が変化したことを示唆する。(2)授業のなかで興味を持った項目について尋ねたところ、模型を用いた「スジカイの体験」という回答が50.6%、実物を用いた「はりの重さの体験」という回答が14.7%となり、ともに高い割合を示した。これは建築士が実物や、自分の得意分野とする模型を用いて耐震補強の重要性を訴えることが、児童の興味喚起に有用であることを示す。また建築士と同様に、地域の各分野の専門家が自らの得意分野を生かし、連携しながら防災教育に携わることが有用と思われた。(3)学年によって興味を持つ項目は異なり、その差は統計的に有意であった。これは学年ごと、授業内容は異なるべきであることを示す。一方、住居形態によっては、興味を持つ項目について有意差は見られなかった。それは今回のような耐震課外授業が都市のような集合住宅が多い地域、地方のような一軒家が多い地域、いずれにおいても適用可能であることを示唆する。</p> <p>※詳しくは、別紙「耐震課外授業」の効果についてをご覧ください。</p>	
<p>成果として 得たこと</p>	<p>より多くの子供たちに事前防災の必要性、効果を伝えることができた。 専門家が子供たちに授業を行う場合の効果、課題を示す重要な資料を残すことができた。 発達段階に応じた防災教育体制の確立への第一歩を踏むことができた。起震車を用いた体験型防災授業は、耐震課外授業内容の理解に役立つだけでなく、学校側の信頼を高め、建築士による防災教育への取り組みへの理解者と連携する他専門家を増やすことができた。 多くの小・中学校に授業内容と効果を説明することで、授業実施の機会が増えた。 他専門家（団体）の防災イベントに協力することで信頼関係が強まった。 他の団体の防災イベントに参加することで、学んだ点も多く交流の幅が広がった。</p>	
<p>成果物</p>	<p>アンケート調査報告書（「耐震課外授業の効果」について） 2006年度授業実施記録（写真） 建築士による住宅模型を用いた防災教育の取り組み（授業実施マニュアル） 大井川西小学校4年生感想文（写） 掲載記事（写）</p>	
<p>広報方法</p>	<p>広報した先</p>	<p>静岡新聞社 NHK静岡放送局</p>
	<p>広報の方法</p>	<p>防災教育チャレンジプラン選出をメールで伝えた。 ウェブで活動内容を伝えた。 授業実施をメールで伝えた。</p>

	取材にきたマスコミ	① 静岡放送局（ラジオ） ② 静岡新聞社 ③ 中日新聞 ④ 毎日新聞 ⑤ NHK静岡放送局 ⑥ 少年写真新聞社
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	① 2006年2月22日「大石岳志の夕焼けワイド」出演 ② 2006年3月4日付け防災特集内に掲載 ③ 2006年5月22日付け防災特集内に掲載、7月11日付けインターネット特集内に掲載 ④ 2006年9月10日付け防災特集内に掲載 ⑤ 2006年11月17日「たっぷり静岡」防災特集で紹介 ⑥ 2007年1月28日号に掲載
	成功点	以前から地元メディアから活動を紹介して頂いていたことから知名度があった。 インターネットを使って、活動内容を伝えた。（ブログの更新をこまめに行った。）
	失敗点	なし
全体の感想と 反省・課題	<p>2003年度から地道に活動を継続したことが、学校や行政からの信頼につながったと思っている。今後も信頼関係を保てるよう努力したい。</p> <p>地元以外の小・中学校や地元町内会に授業目的及び内容について説明することができた。今後も継続して、このような活動を行いたい。</p> <p>起震車による体験型防災授業の実現により発達段階に応じた防災教育体制の確立への第一歩を踏み出すことができた。今後は、中学校に対しても防災教育を行いたいと考えている。中学校と小学校では教育方針が異なるため、中学校側の要望をよく理解し、他専門家と連携しながら時間をかけて、授業を企画立案したい。</p> <p>私の活動は、他専門家（団体）との連携に成り立っている。団体活動も視野に入れつつ、今後も築き上げた関係を保てるよう努力したい。</p> <p>子供たちには、本物になるべく触れてもらうよう授業内容を心がけている。（授業で使用する梁材は、県内の杉材を使用し、住宅模型の制作や耐震補強工事の実演は大工が担当）本物に触れたときの子供たちの表情はとても豊かで、好奇心に満ちている。子供たちの笑顔は、なによりの励みです。今後も建築士だからこそできる授業内容を継続したい。</p> <p>授業を行う講師の熱意が子供たちに与える影響がいかに大きいかをあらためて実感した。建築士として、耐震事業に取り組んでいる熱意（姿勢）をいつも大切にし、子供たちが楽しく生き生きと学ぶことができる授業内容を心がけたいと思います。</p> <p>作成した授業実施マニュアル（「建築士による住宅模型を用いた防災教育の取り組み」）には、必要な手順、時間、準備などを中心に記載した。実行する条件を明示することで、防災教育に取り組みたいと考える専門家や専門家に防災教育を依頼したいと考える学校の一助になればと考えています。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	来年度も継続して、地元小学校を中心に授業を行いたい。発達段階に応じた防災体制の確立を着実に進めたい。他専門家（団体）が主催する防災イベントに参加したい。地域と連携した活動を行いたい。
	是非実施してみたい 取り組み	地域と連携した中学生向け防災授業の実施。 静岡県以外の学校で耐震課外授業を実施 他建築士（もしくは建築士会）との連携。

自由記述

参考資料1「2006年度 授業実績」

学 校 名	①大井川町立大井川南小学校（5年生）	
授 業 内 容	耐震課外授業（住宅模型を用いた体験型防災授業）	
授 業 写 真		
	東海地震の被害想定紹介	実際に使用する梁材の重さを体験
		
	模型（小）で梁の位置を説明	模型（大）で耐震補強効果を体験

学 校 名	②大井川町立大井川西小学校（4年生）	
授 業 内 容	起震車を用いた体験型防災授業	
授 業 写 真		
	起震車を用いた地震体験	レスキュー車の説明
		
	救助用具の説明と体験	記念撮影

学 校 名	③大井川町立大井川西小学校（5年生）		
授 業 内 容	耐震課外授業（住宅模型を用いた体験型防災授業）		
授 業 写 真			
	地震被害について考えてもらう	実際に使用する梁材の重さを体験	
			
	模型（大）で補強前を体験	模型（大）で補強後を体験	

学 校 名	④大井川町立大井川東小学校（4年生）		
授 業 内 容	耐震課外授業（住宅模型を用いた体験型防災授業）		
授 業 写 真			
	東海地震の被害想定紹介	校長先生も授業に参加	
			
	積極的に意見を述べる子供たち	記念撮影	

参考資料2 「地元の小・中学校に授業目的及び内容を説明」

実施日時	2006年5月17日(水) 9:00~12:00	
実施方法	事前連絡の上、大井川町役場学校教育課職員と地元小・中学校を訪問。授業目的及び内容について説明し、今年度の実施を提案した。	
成果	大井川南小学校、西小学校、東小学校については、授業実施が決定した。大井川中学校については、校長先生から中学生向け防災授業についての相談を受けた。	
訪問先		
	大井川南小学校	大井川西小学校
		
	大井川東小学校	大井川中学校

参考資料3 地元住民に授業目的及び内容を説明

実施日時	2006年12月3日(日) 9:00~10:30	
実施場所	大井川町吉永第四町内会公会堂	
実施方法	大井川町第四町内会からの依頼で防災講習会を実施。講習会は、清水 正氏(静岡県中部地域防災局職員)と協同して行っている。講習会テーマについては、以下の通り。 テーマ1 「防災教育の重要性と耐震課外授業の効果について」 テーマ2 「大地震が起きてから・・・では遅い！」 大地震に遭遇したという状況でイメージトレーニング	
訪問先		
	伊藤貴広氏による講習(テーマ1)	清水 正氏による講習(テーマ2)

参考資料4 地元周辺の小・中学校に授業目的のお呼び内容を説明

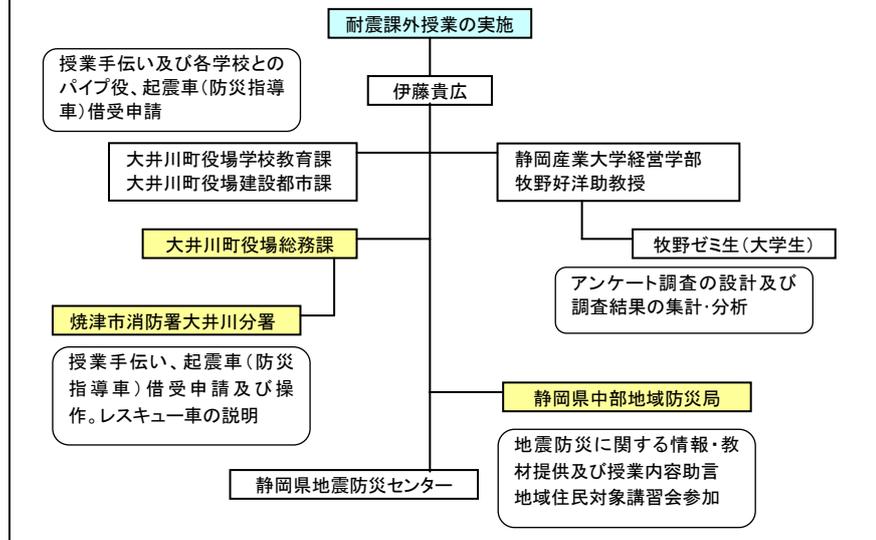
実施日時	2006年9月29日(金) 16:00 ~ 16:30
実施場所	静岡市教育センター
実施方法	静岡県中部地域防災局主催「体育・健康教育指導者講習会」に講師として参加し、静岡市内の小・中学校防災担当教員(約120名)を対象に耐震課外授業の目的及び内容について、約30分説明を行った。授業実施の提案も行っている。 講習会后、授業実施を検討する教員もいた

参考資料5 他専門家(団体)との連携強化

※今年度から連携した専門家(団体)

名称	内容
大井川町役場建設都市課都市計画係	授業手伝い及び耐震補強に関する情報提供
大井川町教育委員会(大井川町役場学校教育課教育課学校教育係)	授業手伝い及び各学校とのパイプ役、起震車(防災指導車)借受申請
静岡産業大学経営学部助教教授牧野好洋	アンケート調査の設計及び調査結果の集計・分析
静岡県地震防災センター	地震防災に関する情報・教材提供及び授業内容助言
大井川町役場総務課防災係* 焼津市消防署大井川分署*	授業手伝い、起震車(防災指導車)借受申請及び操作
静岡県中部地域防災局*	地震防災に関する情報・教材提供及び授業内容助言

連携図

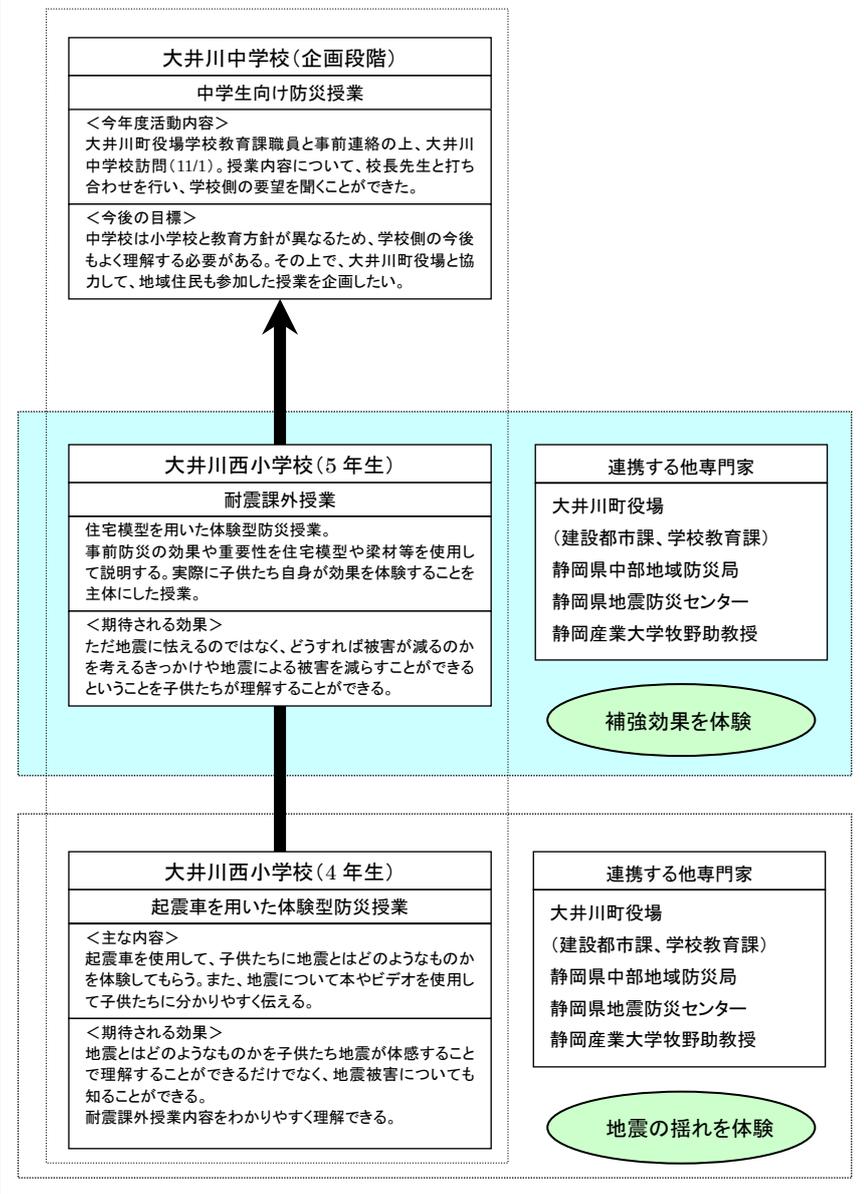


参考資料6 発達段階に応じた防災教育体制の確立

これまでの耐震課外授業をひとつの核として発展させ、子供たちの発達段階に応じた防災体制を確立する活動を大井川西小学校と大井川中学校に対して行っている。

対象学年	学 校 名	実 施 内 容	進 捗 状 況
検討中	大井川中学校	学校側と授業内容を検討中 (11月1日、校長先生と打合せ)	企画段階
5年生	大井川西小学校	耐震課外授業 (住宅模型を用いた体験型防災授業)	毎年実施
4年生	大井川西小学校	起震車を用いた体験型防災授業	毎年実施

発達段階に応じた防災教育体制の確立(2006年現在)



参考資料7 インターネットによる情報発信の強化

開設日	2004年8月21日（デザイン・内容変更は、2006年4月実施）	
実施方法	活動記録や防災教育に対する自身の考え方をインターネット（ブログ）で、できるだけ多くの人たちに伝えている。今年度は、これまで以上に内容を充実化させるため、デザイン変更だけでなく、内容も充実させた。	

参考資料8 他団体主催の防災イベントに参加

実施日時	2006年8月27日（日） 8：30～12：00	
イベント名	大井川町総合防災訓練（場所：大井川西小学校）	
参加内容	大井川町主催の総合防災訓練に耐震診断相談員として参加。 ＜主な内容＞ 木造住宅の耐震化について、町民の質問に対応した。 地震による建物倒壊について説明した。 県の事業「TOUKAI-O」のチラシ配りを手伝った。	
写真		

実施日時	2006年10月15日（日） 14：00～15：00	
イベント名	社団法人三島市青年会議所主催防災イベント	
参加内容	三島市青年会議所主催の防災イベントに講師として参加。 小学校で実施している耐震課外授業を行った。	
写真		

参考資料9 授業実践マニュアルの作成とウェブ公開

学校で防災授業を行うための手順や授業のやり方をマニュアル化し、ウェブ公開した。授業を検討している学校や自己の経験と知識を生かした防災授業を行いたいと考えている専門家に対する参考資料となればと考えている。詳しくは、別紙資料「建築士による住宅模型を用いた防災教育の取り組み -地域における専門家の連携-」をご覧ください。